

秋 田 市

# 上新城中学校遺跡

— 学校改築に伴う緊急発掘調査概要 —

**1989.3** 秋田市教育委員会

## 序

上新城地区は、昔から土器、石器の出土する所として知られている遺跡の多い地域の一つです。

この度、上新城中学校改築に伴う、事前の発掘調査を実施し、縄文時代晚期の墓、住居地を囲み精円形の柵木跡と推定される溝跡が検出され、縄文時代から弥生時代にかけての集落のあり方に問題を投げかけています。遺跡の全容は次回の発掘調査を待たなければなりませんが、調査の実施にあたっては学校、地元関係者の積極的なご協力をいただき深く感謝いたしております。

とりあえず、概報としてまとめましたので、文化財保護のため、さらには研究資料として広く活用されば幸甚に存じます。

平成元年3月

秋田市教育委員会

文化振興課長 奥山良三

## 目 次

### 序

### 例言

調査に至るまでの経過	1
調査期間と体制	1
調査の方法と経過	1
遺跡の位置と立地	3
遺構と遺物	5
まとめ	14

## 例 言

1. 本概報は秋田市上新城五十丁字小林190の1に所在する上新城中学校遺跡の発掘調査概報である。
2. 本概報の執筆、編集は菅原俊行、安田忠市が行った。
3. 遺物については東北大学の須藤 隆氏より御教示を賜った。
4. 遺跡の位置と立地は、「上新城中学校遺跡とその周辺遺跡」(1973 秋田市教育委員会)の遺跡の環境の文章を利用し、調査区層序を付け加えた。
5. 遺構の平面図、土層断面図中のPは土器(片)、Sは石(礫)を示す。土製品実測図の土偶のペンガラ付着箇所、石器実測図の石鎌、石匙、鋸歯縁石器等の外形図にはアスファルトの付着箇所をそれぞれ示した。
6. 発掘調査による出土遺物、実測図、写真、その他は秋田市教育委員会が保管する。

## 調査に至るまでの経過

中学校校舎は昭和29年に建てられた木造建築で以前から改築の計画があった。新校舎の建築は平成元年に現校舎南側前庭部に予定され、昭和55年に林道工事に伴う発掘調査で検出された西側沢部の捨て場に隣接する地域で、住居地と想定した地域である。<sup>(注1)</sup>発掘調査は昭和63年から平成2年までの3カ年計画とし、前庭部、体育館、校舎の場所の順に発掘調査することとした。また、今回の調査では、体育館の南西にあったと伝えられている日吉八幡神社（秋田県指定文化財、秋田市八橋一丁目4-1）の存在を確認することも調査目的の一つであった。

(注1) 「上新城中学校遺跡」林道工事・小グランド造成に伴う緊急発掘調査報告書、1980(昭和55)年3月、秋田市産業部、秋田市教育委員会

## 調査期間と体制

調査期間 昭和63年6月13日～8月31日

調査主体者 秋田市教育委員会

調査担当者 秋田市教育委員会

調査員 普原俊行、石郷岡誠一、安田忠市（秋田市教育委員会 文化振興課）

調査補佐員 五十嵐芳郎（秋田考古学協会員）

調査作業員 相沢貞雄、藤原アイ子、徳山京子、佐藤トシ子、鎌田克子、佐藤スズ、泉 サヨ子、  
佐田孝子、鎌田 俊、若狭キミ子、石井ヤエ、石井タケ子、小柳絹子、佐藤芳枝、石  
井スジエ、渡辺フミエ、泉 ひめ子

事務員 信太 緑

## 調査の方法と経過

校舎を中心に調査区を設定し、任意の原点を決めて東西南北（磁北）に基準線を作り、調査区全体に大グリッド（40m×40m）を設定し、さらにその中に小グリッド（4m×4m）を設定し、単位グリッドとした。大グリッドは（1～15）、小グリッドは東西（X軸）に数字（1～10）、南北（Y軸）にアルファベット（A～J）を配し、その組み合わせで遺跡名（KC）、大グリッド番号、小グリッドの順に呼称することとした。

発掘調査は、<sup>6月</sup><sub>13日</sub>～<sup>8月</sup><sub>31</sub>の日程で実施した。調査地の前庭部は造成および校舎建築の際、削平され、芝を除去すると第2層となり、集石が確認された。調査は排土の関係で西側と東側に分け、西側から始めた。西側では住居跡、土壙墓、土壙、溝跡等が検出され、東側では住居跡、土壙等が検出されたが、本調査の目的の一つである「日吉神社」に関連する遺構、遺物は確認されなかった。



第1図 遺跡の位置

## 遺跡の位置と立地

### 遺跡の位置

遺跡は秋田市上新城五十丁字小林にあり、上新城中学校を中心とした一帯である。秋田市街から北へ直線距離にして約9kmの地点で、秋田から土崎を通り、飯島字長野、飯田を経て、秋田中央交通バス停留所「上新城中学校前」の斜面の道路を登り切った標高約35m前後の南面する段丘上に存在する。

### 遺跡付近の地形

上新城地区は、太平山塊に源を発し日本海に注ぐ長さ約20kmの新城川の上流部に位置し、新城川とその支流の愛染川との細長く二分した谷底平野と、それを挟むように分布する丘陵から成る。この上新城丘陵は標高60～200mのかなり開析を受けた地形であり、この丘陵の末端を南西に流れる新城川沿いには数段の段丘がみられる。五十丁集落付近には上下2段みられ、上段は開析を受けた標高60～65m、下段は40～50mで、約10mの比較的急な斜面で上段と区別される。しかし、空中写真と地形図から判断すると、杉崎付近から五十丁集落にかけてはすくなくとも上下3段の段丘が確認でき、前述の上下2段の段丘のはかに標高25～30mの段丘が認められる。

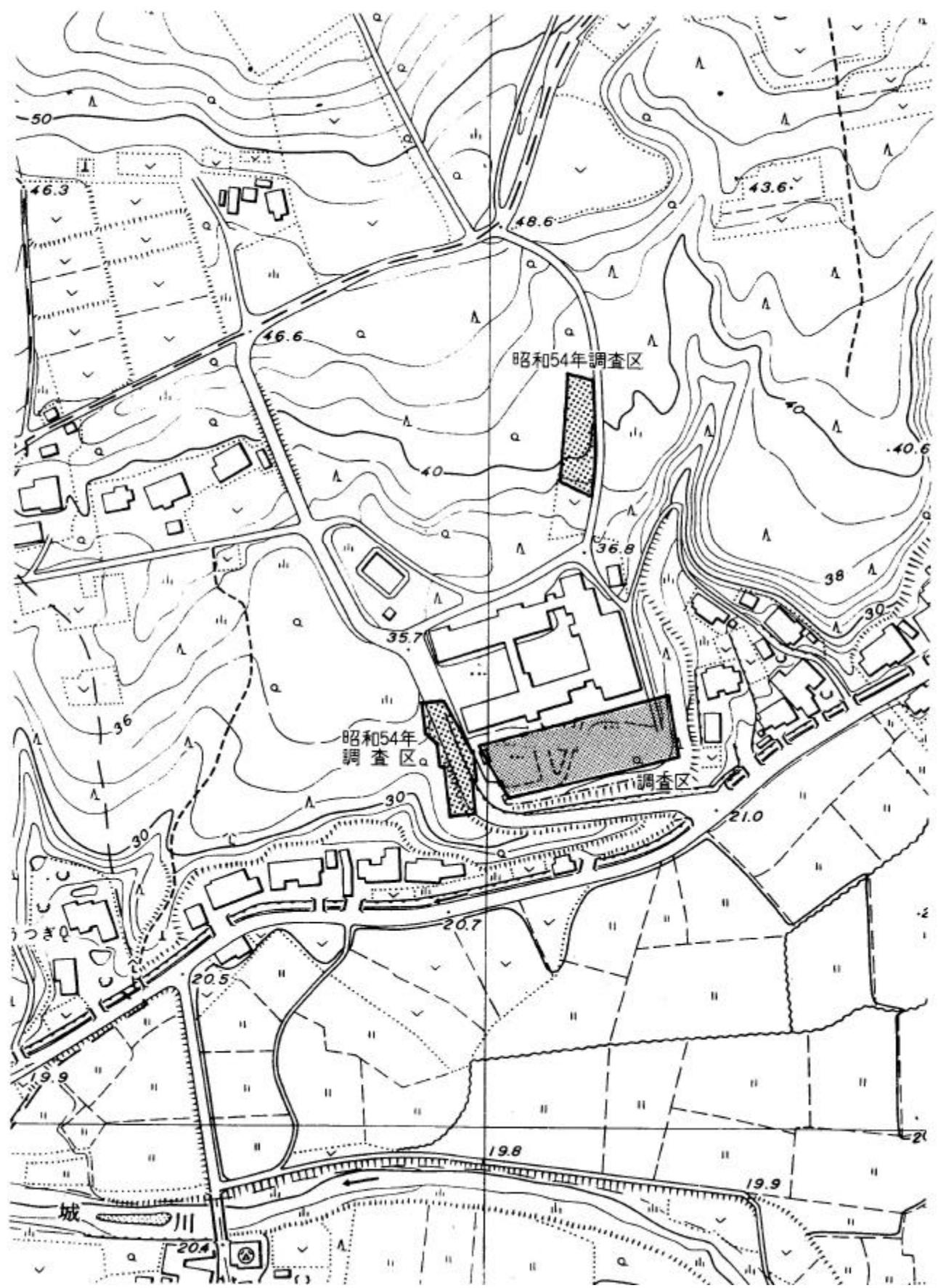
### 遺跡付近の地質、土壤

遺跡付近の丘陵並びに段丘を構成する地層は、基盤は新第3系中新世船川層で、その上には暗灰～灰色泥岩およびシルト岩から成る天徳寺層が覆っている。天徳寺層を覆うのは笠岡層で、下部はシルト岩ないし砂質シルト岩で上方に漸次砂質化し、上部は微細粒の砂岩となる。この鮮新世笠岡層の上には寒風火山の噴出によるといわれる黄褐色の粘土質火山灰土が堆積し、最上位には亜円礫が混入する黒色土が覆っている。これはいわゆる高岡2統で、黒色の色調はそれほど強くない。一次鉱物を見ると火山ガラスが混入しており、火山灰が関係しているものと推定される。現水田面はシルト主体の沖積層（西山統）である。

調査における層序は、調査区西側の斜面（沢部）は第1層が表土、第2層が暗褐色土、第3層が黒褐色土、第4層が暗黒褐色土、第5層がローム層である。第2、3層は炭化物を含み、第3層は第2層よりも多い。第2、3層は遺物包含層で、この層に集石が認められる。調査区東側は第1層が表土、第2層が暗褐色土、第3層が暗黄褐色土、第4層がローム層である。第2層に炭化物、第2、3層には礫（小礫、中礫）を含み、第2層が遺物包含層である。

(注1) 国土庁（土地分類調査）秋田（5万分の1） 経済企画庁 1966年

(注2) 同上



## 遺構と遺物

### 検出遺構

集石遺構、竪穴住居跡、土壙墓、土壤、溝跡、炉跡、土器埋設遺構等が検出された。

### 集石遺構

調査区西側と東側の一部で検出された。調査区西側の集石は径5~30cmの礫で、第2、第3層より多量の遺物とともに検出された。調査区東側の集石は径5~15cmの礫で、9-5Hグリッドを中心とする6×5mの梢円形の範囲の第2層より検出された。いずれも検出状況から礫を配した形跡は認められなかった。

### 竪穴住居跡

3軒検出された。1号住居跡は調査区西側で検出され、規模、プランは不明である。ビットは多数検出されたが主柱穴は不明である。炉は地床炉である。2号住居跡は調査区中央部で検出され、規模、プランは不明である。主柱穴は4個で、径40~60cm、深さ63~73cmである。炉は確認されていない。3号住居跡は調査区東側で検出され、規模、プランは不明である。主柱穴は4個で、径40~60cm、深さ62~75cmである。炉は地床炉で、礫が1個認められた。

### 土壙墓

調査区西側で17基検出された。形態は梢円形、小判形を呈し、規模は壙口部長軸最小が99cm、最大が135cmで、120cm前後のものが多い。長軸方向は西-北方向のものが多い。埋葬頭位については人骨の出土はないが、昭和54年の林道工事、小グランド造成に伴う発掘調査における土壙墓内のベンガラ検出例や、能代市拍子所貝塚等の例から、11号土壙墓のベンガラは北西部に位置しており、北西頭位と考えられる。<sup>(注1)</sup>

### 土壤

39基検出された。調査区西側に多く検出され、土壙墓と区別される。比較的小形で、円形を呈するものが多い。

### 溝跡

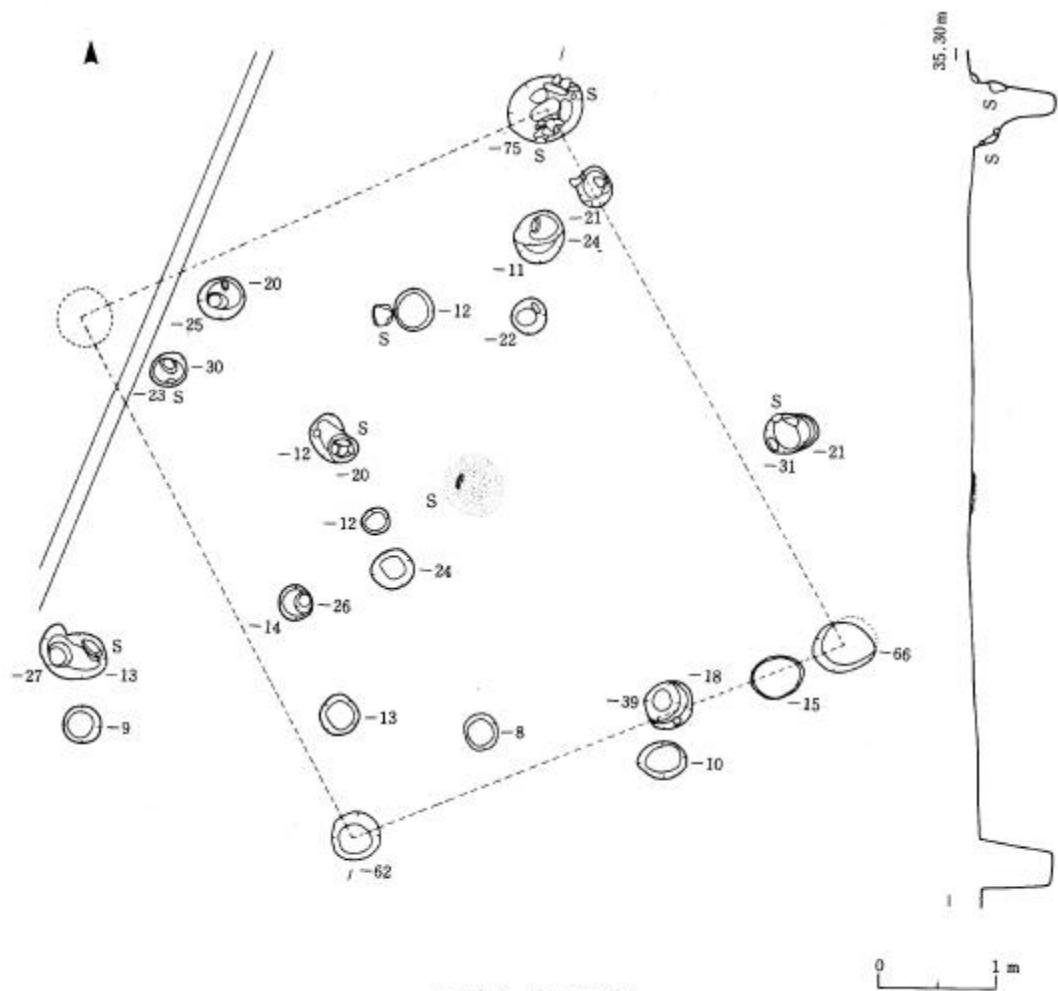
3条検出された。1、2号溝跡は調査区中央部で、南東、北西方向に弧を描くように検出された。2条平行しているが、1条のみの部分もある。幅約30cm、確認面からの深さは約25cm、壁はほぼ垂直に立ち上がり、径10~20cmの平坦面のある礫が壁際に立った状態で検出された部分もある。3号溝跡は調査区中央部の南側で検出され、1、2号溝跡に切られている。幅60~130cm、確認面からの深さ約10cmで、中に2条の小さな溝が認められる。

### 炉

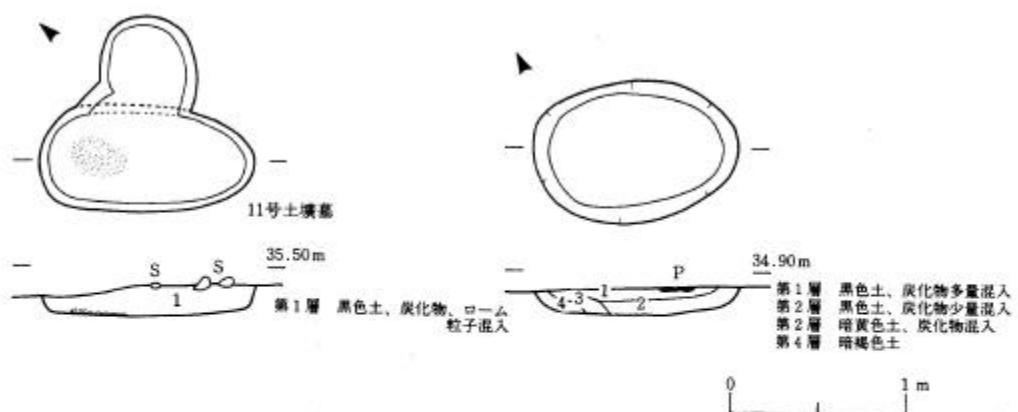
調査区南側の第2層より1基検出された。石畳炉で、焼土が約2cm堆積していた。

### 土器埋設遺構

調査区西側の第3層面より1基検出された。口径39cm、高さ49cmの深鉢形土器が正立していた。



第3図 3号住居跡



第4図 土 墓

(注1) 「上新城中学校遺跡」林道工事、小グランド造成に伴う緊急発掘調査報告書 1980(昭和55)年3月 秋田市産業部 秋田市教育委員会

(注2) 「拍子所貝塚」 昭和41年 秋田県文化財調査報告書 第8集 秋田県教育委員会 能代市教育委員会

### 出土遺物

土器、土製品、石器、石製品等で、ほとんどが集石遺構からの出土である。

#### 土器

主体は縄文時代晩期で、大洞B～A'式土器が出土し、中でも大洞C<sub>1</sub>、A式土器が多い。また、少量ではあるが後期の土器も出土している。器形は深鉢形土器、壺形土器、広口壺形土器、蓋形土器、注口形土器がみられ、中でも鉢形土器、台付鉢形土器が多い。

1は入組文が施される注口土器で、大洞B～BC式と考えられる。2～5は大洞C<sub>1</sub>～A式と考えられ、2は蓋、3は台付鉢、4は壺、5は広口壺である。

#### 土製品

土偶、土版、再利用土製品等が出土している。

1、2は土偶である。1は空中で、部分的にベンガラの塗布が認められる。2は膝を曲げているようである。3は土版で、三角形を呈する。刻線で文様に施し、中央部に側面から孔が貫通している。

#### 石器

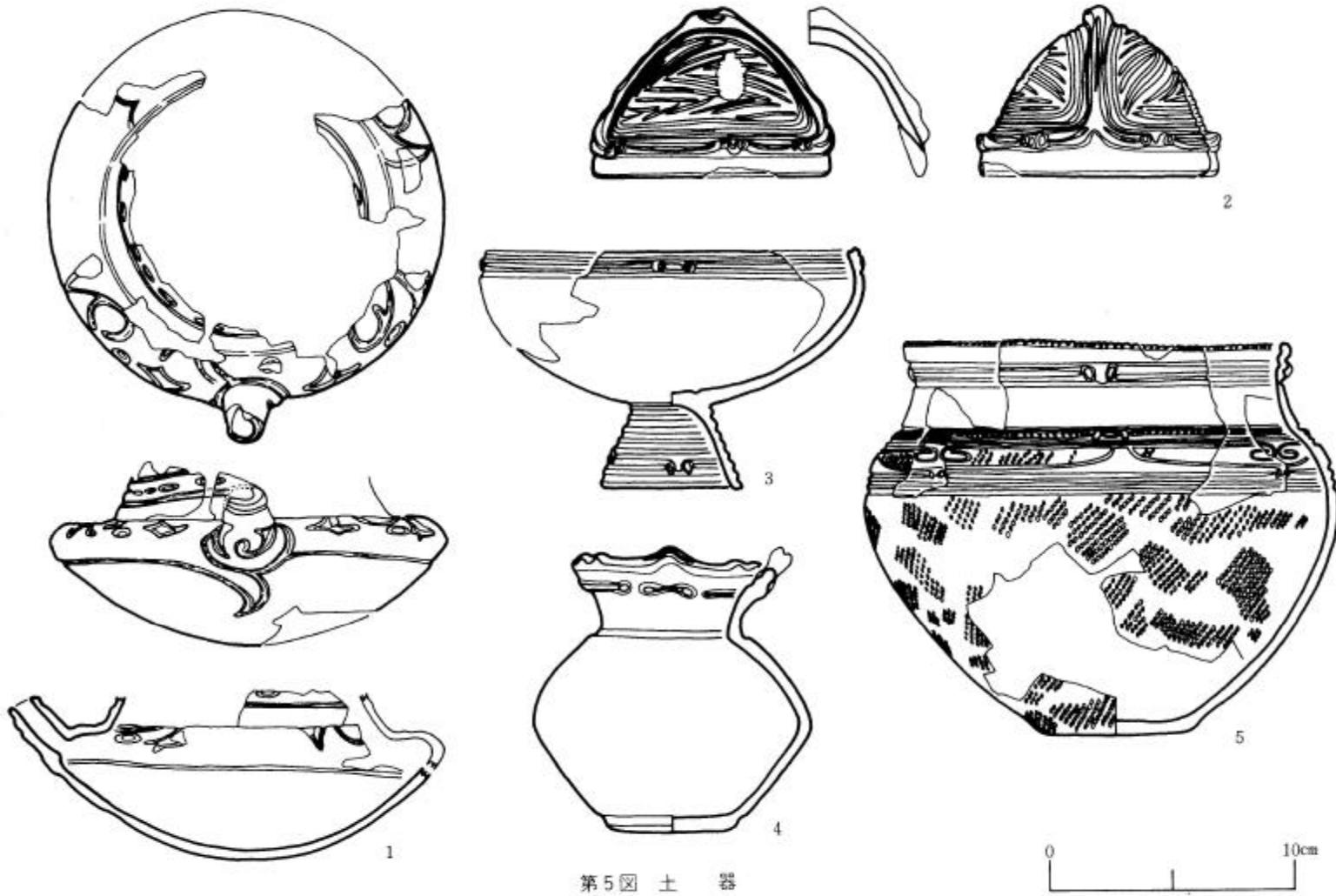
石鏸、石錐、石匙、石槍、ヘラ状石器、搔器、削器、鋸齒縁石器、磨製石斧、独鉛石、石棒、石劍、くぼみ石、磨石、敲石、石皿、台石等が出土している。

1～3は石鏸である。いずれも有茎で、2、3にはアスファルトが付着している。石質は硬質頁岩である。4、5は石錐である。つまみ部を幅広く作り出し、錐部は菱形を呈する。石質は硬質頁岩である。6、7は石匙である。6は縦型、7は横型で、7のつまみ部にはアスファルトが付着している。石質は硬質頁岩である。8は石槍で、木葉形を呈する。両面加工で、石質は硬質頁岩である。9、10は片面加工である。石質は硬質頁岩である。11、12は鋸齒縁石器である。両面加工で、上半部にアスファルトが付着している。石質は硬質頁岩である。13～16は磨製石斧である。13は小形磨製石斧である。石質は凝灰岩である。17、18は独鉛石で、18はほぼ完形品である。石質は凝灰岩である。19、20は石棒で、いずれも頭部に刻みを施している。石質は粘板岩である。21、22石劍で、いずれも破損品である。石質は粘板岩である。

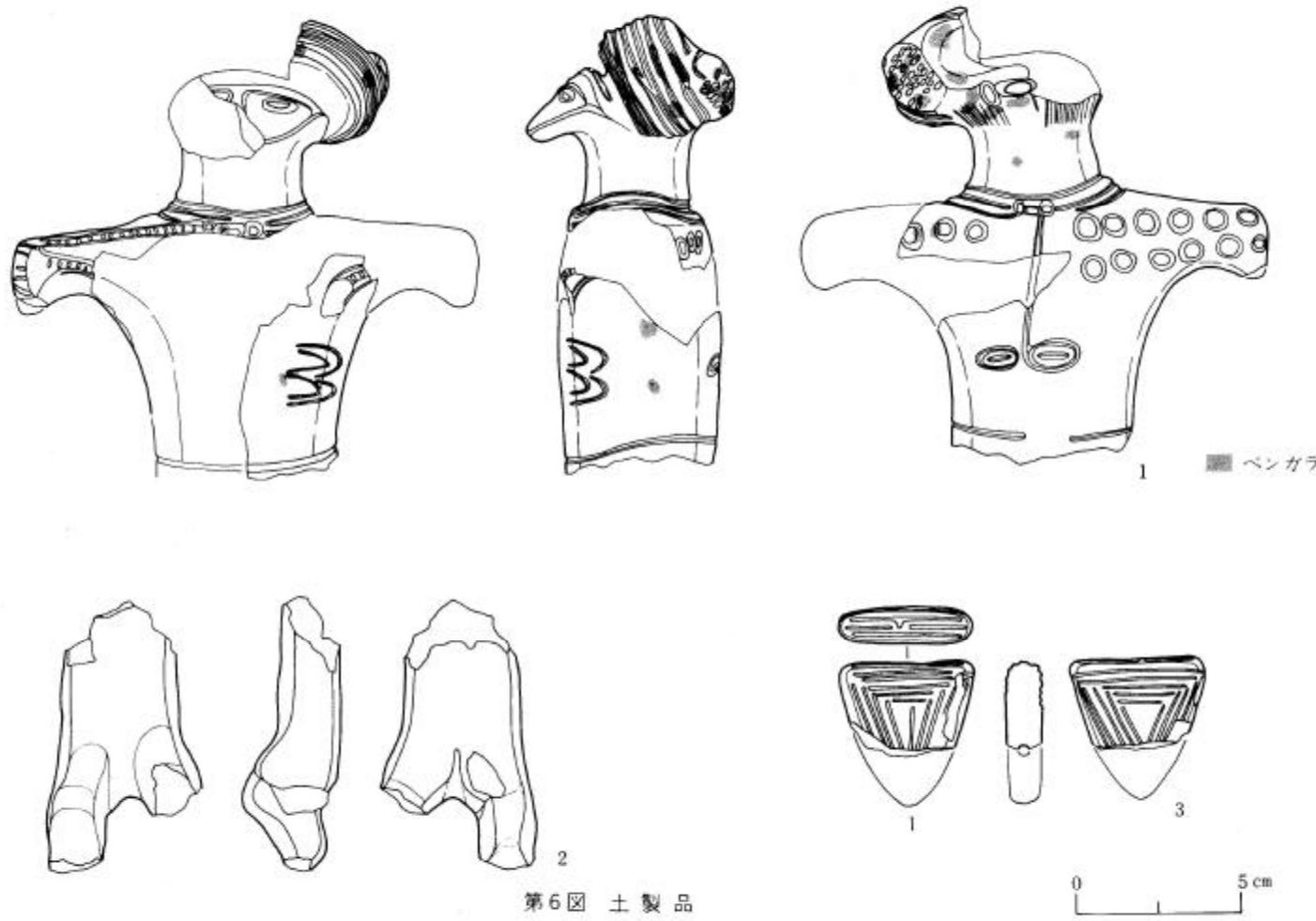
#### 石製品

円盤状石製品、石冠等が出土している。

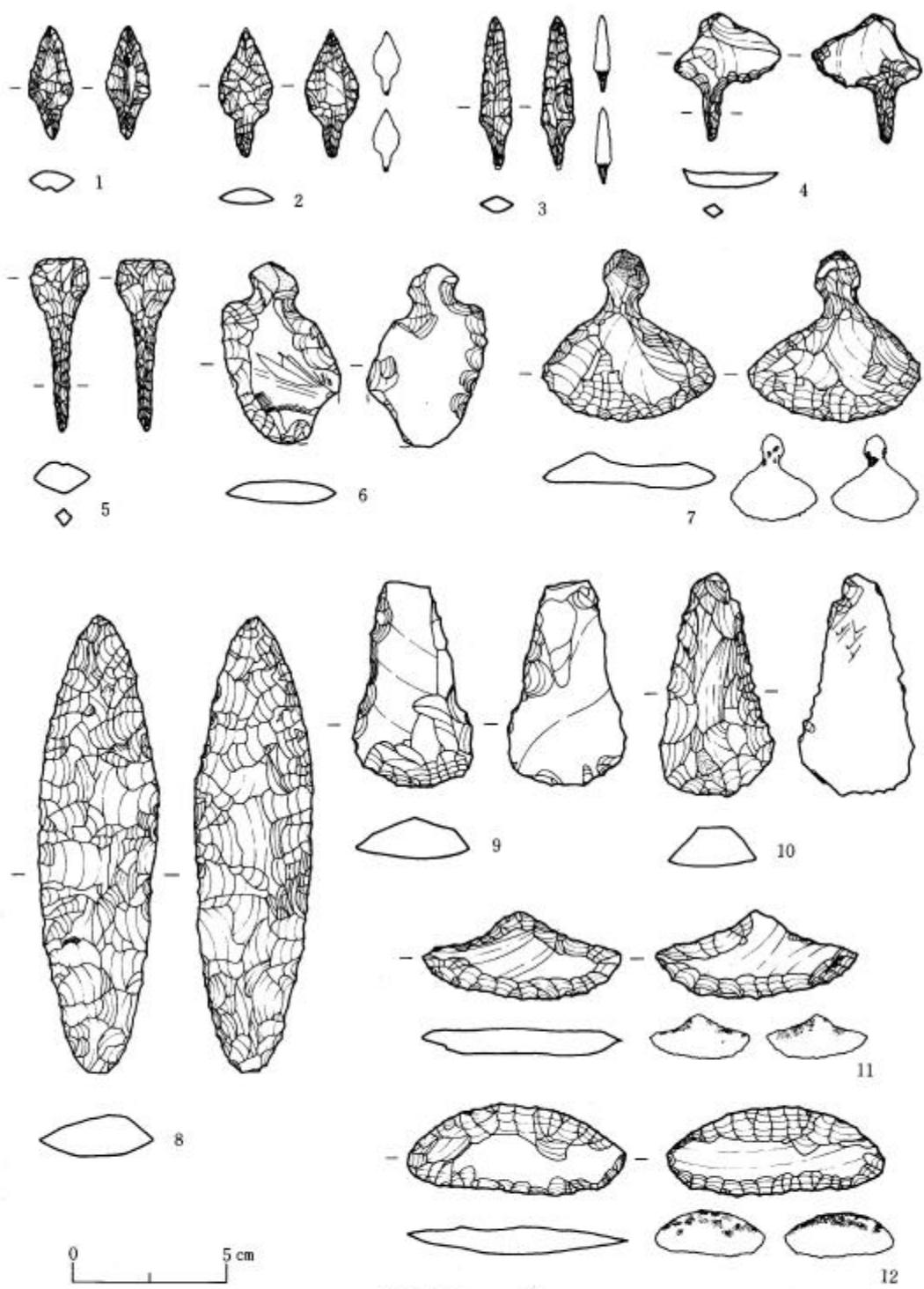
1～3は円盤状石製品である。偏平な石の周縁部を打ち欠いたもので、石質は安山岩と考えられる。4、5は石冠で、4は頭部を丸く作り出し、5は断面が楔形をなす。石質は4が安山岩、5が凝灰岩である。



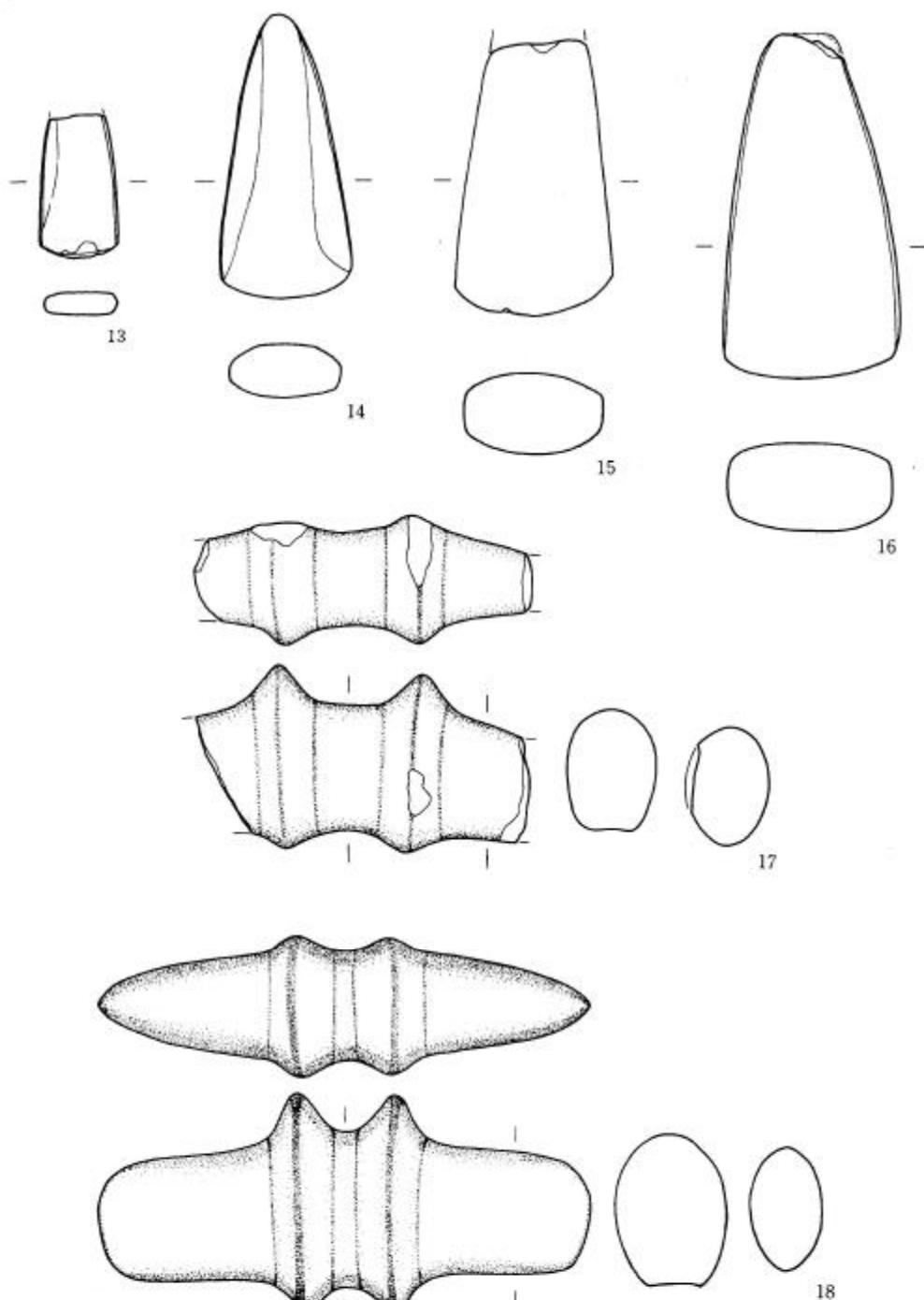
第5図 土 器



第6図 土 製 品

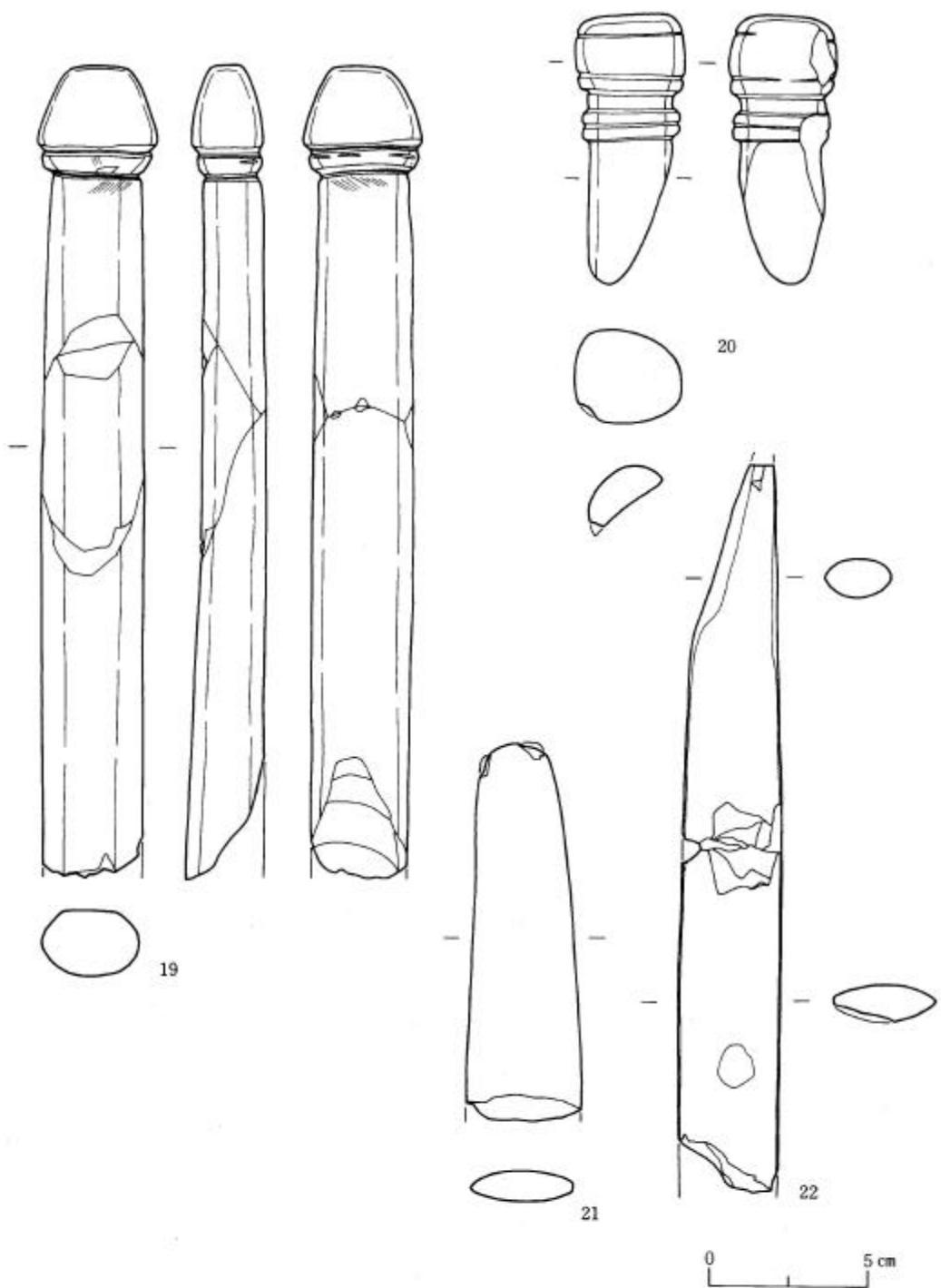


第7図 石 器

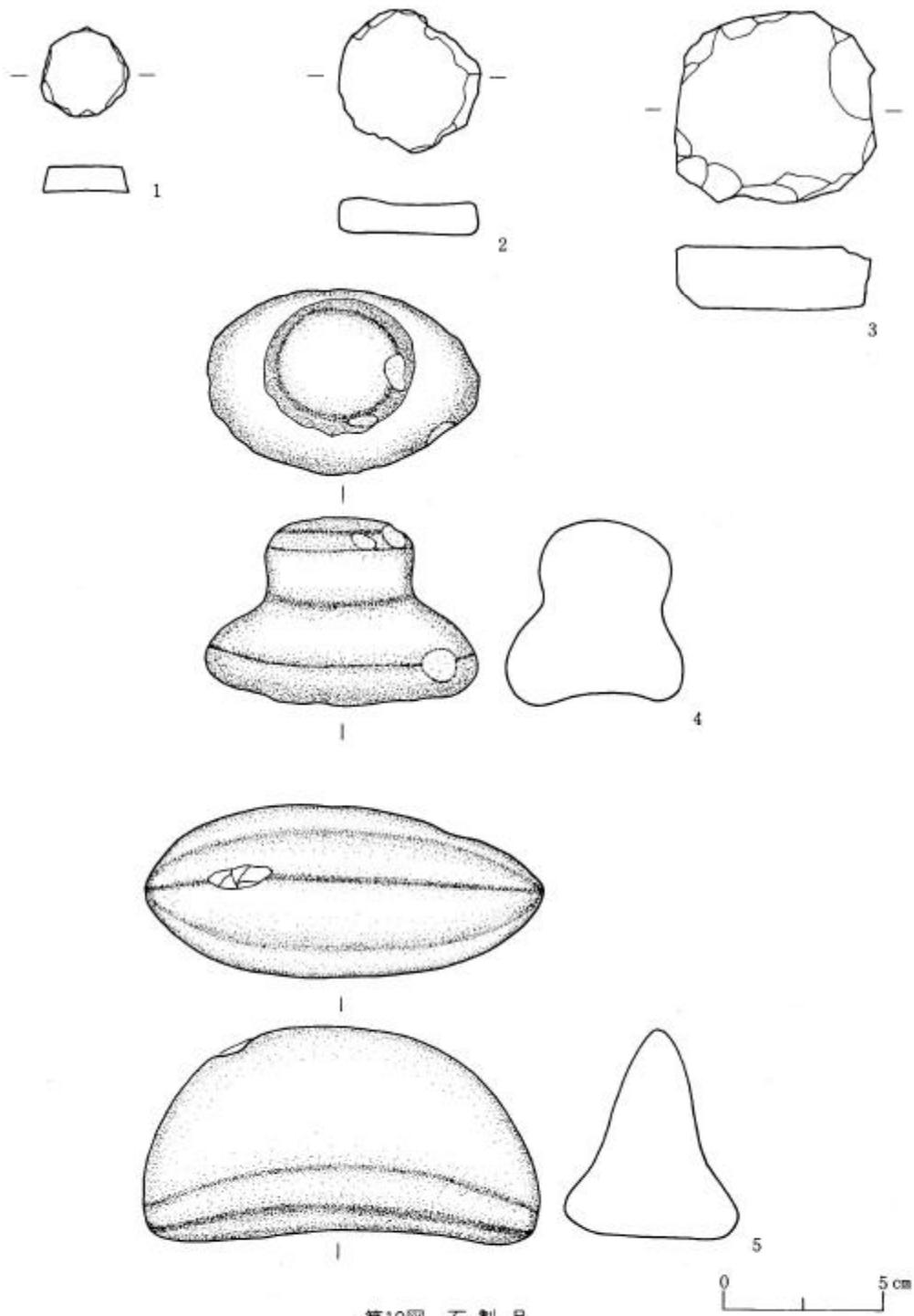


第8図 石 器

0 5 cm



第9図 石 器



第10図 石製品

## まとめ

本遺跡は昭和29年4月、上新城中学校を建築する際に縄文時代晚期の遺物が出土し、翌30年8月に一部発掘調査を実施し、組石遺構が確認されている。昭和54年4～3月には校舎西側の林道工事に伴う発掘調査（A地区）が実施され、縄文時代晚期の集石遺構、土壙墓20基、土壙4基が検出され、同年9～11月には校舎北側の小グランド造成に伴う発掘調査（B地区）が実施され、土壙墓74基が検出されている。<sup>(注1)</sup>

今回の調査区は校舎の前庭部で、本遺跡の南端部にあたり、昭和54年調査A地区の東側隣接地である。

遺構については集石遺構、堅穴住居跡3軒、土壙墓17基、土壙39基、溝跡3条、炉、土器埋設遺構各1基が検出され、集石遺構は昭和54年調査のA地区捨て場と考えている南東の端部にあたり前述のように遺物の多くはこの地区からの出土である。堅穴住居跡は1～3号住居跡とも平面形は不明であるが、1号住居跡は炉を中心に囲むピット群が柱穴であり、2号、3号住居跡の主柱穴は炉を中心とした対角線上の4本と考えられる。土壙墓の形態は橢円形10基、小判形7基で規模は壇口部長軸最小99cm～最大135cmの大きさである。長軸方向は北～西方向を示すもの15基と最も多く、北東1基、南西1基である。土壙内に赤色顔料（ベンガラ）が検出されたのは11号土壙墓でベンガラは北東部に位置する。校舎玄関西脇から南東にかけて検出された弧状の平行する2本の遺跡はその方向等から橢円形を呈すると推定される遺構で、市内御所野台地で確認された「地蔵田B遺跡」<sup>(注2)</sup>の柵木跡（溝跡）と類似するが、地蔵田B遺跡の溝跡は径20～30cm、深さ30～60cmの連続する柱列で構築されており、上新城中学校遺跡の溝跡は柱穴が確認されていないが、溝壁面に河原石が組まれた状態で見られた。これは構築上の相違か溝跡の用途の違いによるものかはっきりしない。

具体的には今後の調査を待たなければならないが、地蔵田B遺跡とともに縄文時代晚期後半～終末を中心とするこの時期の集落のあり方を示唆する遺跡といえるのではないだろうか。

## 2

(注+) 「秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書・地蔵田B遺跡」 1986年 秋田市教育委員会

## 1

(注+) 「秋田市上新城中学校遺跡、林道工事・小グランド造成に伴う緊急発掘調査報告書」 1980年 秋田市産業部、秋田市教育委員会



上新城中学校遺跡遠景（南東→）



集石遺構（西→）

図版1



溝跡検出状況（西→）



遺物出土状況



土偶



第11図 遺構配置図

---

秋田市  
上新城中学校遺跡  
－学校改築に伴う緊急発掘調査概報－

平成元年3月

発行 秋田市教育委員会

印刷 秋田マイクロ写真印刷(株)

---